

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 107人

② 算数 107人

5 留意事項

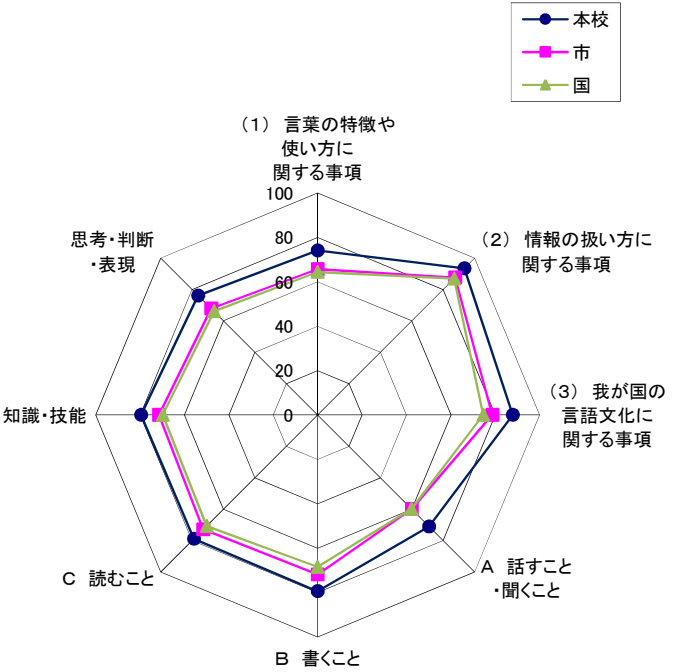
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立戸祭小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.1	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	93.5	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	87.9	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	71.0	59.9	59.8
	B 書くこと	79.4	71.8	68.4
	C 読むこと	78.8	72.9	70.7
観点	知識・技能	79.6	71.5	69.8
	思考・判断・表現	76.1	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

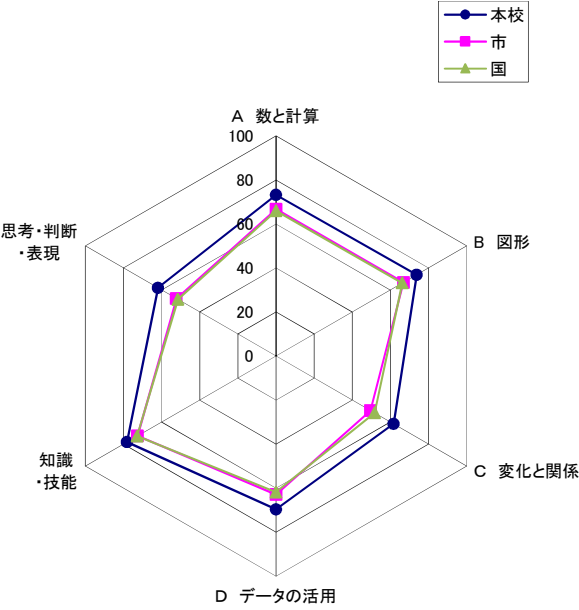
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	○本校の平均正答率は、全国平均を9.7ポイント上回っている。 ○話し言葉と書き言葉との違いについて理解できている。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができています。 ●文の中における主語と述語との関係を捉える問題に、やや課題が見られる。	・定期的に漢字の復習を取り入れたり、一人一台端末で繰り返し練習をしたりして定着を図る。 ・日頃から学習した漢字の意味を辞典で調べたり、その漢字を使った短文を作る練習を取り入れたりすることで、慣れ親しませる。 ・日記や作文などの文章の中で正しく漢字を書いたり、主語と述語を正しく理解して使用したりできるように、継続的に指導をしていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	○本校の平均正答率は、全国平均を6.6ポイント上回っている。 ○情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、正しく使うことができています。	・児童が、自ら問題意識をもち、問題解決の見通しを立て、必要な情報を収集し、情報を読み取り、情報を分類・整理してまとめる学習活動を授業内に構成していく。 ・「情報の扱い方にに関する事項」と「読むこと」を関連させた授業づくりを進め、情報と情報の関連付けの仕方や語句と語句との関係の表し方の定着を図っていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○本校の平均正答率は、全国平均を13.3ポイント上回っている。 ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付いている。	・SNSや動画の視聴をする児童が増加傾向にある中、読書の習慣が身に付くように、「親子読書」や「チャレンジ図書」、「朝の読み聞かせ」等の本校独自の活動を通して、本好きな子を育てていく。
A 話すこと・聞くこと	○本校の平均正答率は、全国平均を11.2ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することが、よくできている。 ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができている。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討することができている。	・国語の時間だけでなく、特別活動や他教科の学習でも話し手の意図を捉えながら意識して聞くよう、指導する。 ・発表をする場面では、要点をまとめて筋道を立てて話す指導を行っていく。また、聞き手は発表者の意図や重要な所を理解できるように意識して聞けるよう指導していく。 ・発表やスピーチ等の話す活動をする際に、質疑応答の時間を設けることで、より詳しく話せるよう指導していく。
B 書くこと	○本校の平均正答率は、全国平均を11ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができている。	・授業の中で、自分の考えを理由を明確にしながらいり、友達と文章を読み合ったりする活動の充実を図っていく。自分や友達の書いたものが、目的や意図に沿っているのか、互いに吟味し合う場を意図的に設けていく。 ・学習のまとめや振り返りの際に、調べたことや読み取ったことを理由や事例にして自分の考えを書く活動を取り入れる。
C 読むこと	○本校の平均正答率は、全国平均を8.1ポイント上回っている。 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができています。 ○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることがよくできている。	・物語文で出てくる表現の意図を考えさせたり、どのような表現が効果的なのかを考えさせたりする。 ・様々な資料を活用した読み取りを、今後も授業の中で取り入れていく。自分で資料を作成する活動と関連させていくことで、表現力、読解力の向上に努める。

宇都宮市立戸祭小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	73.2	66.7	66.0
	B 図形	73.8	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	61.7	49.6	51.7
	D データの活用	69.6	62.9	61.8
観点	知識・技能	78.1	72.6	72.8
	思考・判断・表現	61.9	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○本校の平均正答率は全国平均を7.2ポイント上回った。 ○ほとんどの設問で選択式の問題に対しては無解答がなく、記述の問題についても無解答が少なく、全国平均よりも8.5ポイント高い。 ○小数の除法における除数と商の関係を理解する問題は10ポイント以上高い。 ●問題場面の数量関係をとらえて式に表す問題でのみ1.4ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も基礎的な計算の仕方や計算のきまりについて、確実に身に付くまで指導する。 ・問題文の重要な部分に線を引くなど、一人一人に合わせた具体的な方法を伝えながら、何を問われているのかを正確にとらえて解答に臨めるようにする。 ・全員が自分の考えをもって話し合いに臨めるよう、問題に合わせて個人の時間とグループでの時間、全体での共有の時間をそれぞれ組み立てて指導に当たる。
B 図形	○本校の平均正答率は全国平均を7.5ポイント上回った。全ての設問で平均正答率は全国・県の平均を大きく上回っている。 ○球の直径と立方体の体積の関係を捉えて体積を求める式を考える問題は全国平均よりも11.2ポイント高い。 ●五角柱の底面や側面に着目して、面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する問題で、点数的には全国平均よりも8.4ポイント高いが、無解答が全国平均よりも1ポイント高かった。	・今後も図形に関する興味・関心を高め、意欲的に取り組めるようにする。 ・基本的な事項をどのように応用していけるかを考えた、発展的な問題にも取り組ませていく。 ・図形に関しても、既習事項をもとに自分なりの考えをもてるよう、ヒントを示して考える時間を確保したり、それぞれの考えをすり合わせて課題を解決する場を設けたりする。
C 変化と関係	○本校の平均正答率は全国平均を10ポイント上回った。 ○「家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く」設問では、本校の平均正答率は国の平均を11.1ポイント上回った。 ○どの設問も平均正答率は国や県の平均を上回っている。 ●「家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く」という設問では、無解答の割合が国や県の平均と比べて高い。	・速さの問題について、様々な場面を取り上げて、繰り返し学習できる機会を設ける。 ・記述式の問題への苦手意識を無くすため、日ごろから自分の考え方を書いたり、説明したりする活動を行う。
D データの活用	○本校の平均正答率は全国平均を7.8ポイント上回った。 ○「示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く」設問では、全国の平均正答率を12.4ポイント上回った。 ●「折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く」設問では、無解答の割合が全国平均と比べて高い。	・それぞれのデータの特徴や活用する場面を考え、目的に合わせて必要な情報を選択できるようにする。 ・調べ学習などの機会を逃さず、グラフや表を使ってデータを分類する活動を意識的に取り入れていくようにする。 ・答えを出すだけではなく、なぜそうなったのか、どこからそのことが分かるのかを明確に意識させた授業を展開する。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問に対して、「よくある」と回答した児童の割合は59.6%と全国の平均を8ポイント上回っている。このことから、本校の児童は、自分の生活に満足していて、物事に前向きに取り組める状態であることが考えられる。児童会活動等、さらに児童が主体となって活動できるような取組を工夫していきたい。

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか」の質問に対して、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童の割合は県や全国の平均を大幅に上回っている。1時間以上勉強していると回答した児童の割合は合計85.3%であり県や全国の平均を大きく上回っている。それに伴い、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか」の質問に対して、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童の割合は県や全国の平均を大幅に上回っている。

○「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか」の質問に対して、「家で勉強や読書をしている」「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」「習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている」と回答した児童の割合が県や全国の平均を上回った。このことから、家庭での学習習慣の定着につながっていると考えられる。

○「国語の勉強は好きですか」の質問に対して肯定的回答をした児童の割合は、県や全国の平均程度であるが、「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に対して、肯定的回答割合は100%であった。なおかつ「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対して、肯定的回答割合は99.1%と県や全国の平均を上回った。

●「算数の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的回答割合は56.0%と全国よりも5ポイント下回った。しかし、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対して、肯定的回答割合は100%であった。児童の興味・関心を引き出すことができるような教材研究や内容の工夫が必要である。

●「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合は、39.4%と県よりも10.2ポイント下回った。道徳の授業を通して、考えを深めたことや学級やグループで話合ったりする活動を通して、実際の生活の場面で自信を持って生かすことができるよう工夫をしていきたい。

宇都宮市立戸祭小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自ら考え、伝え合い、理解し実践する児童の育成 ・児童が納得と達成感を得られるための教師のコーディネート ・すべての児童が発言できる学習形態の工夫	・全員が理解できるように、課題提示を工夫し、学習の見通しをもたせ、何をすれば良いのかを明確にした授業を展開する。 ・伝え合う活動の充実を図り、児童が学んだことを自分の言葉に言い換える場を設け、考えを深められるようにする。 ・「相手への伝え方」のレベル表を作成し、伝えることの大切さを児童に意識させるとともに、友達の意見や考えを聞き比べ、考えを深める場となるよう指導する。 ・朝の学習時間に「計算オリンピック」を行い、基礎的・基本的な力を養う。	・国語、算数において、市の平均正答率より高い。 ・「話し合いを通して自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付く」の肯定割合は、95.5%であった。 ・「先生は、学習のことについてほめてくれる」は98.2%であった。 ・「算数は好きですか」の肯定割合は56.0%で全国より5ポイント低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・算数の記述式の問題で、無解答だった、途中で書くことをあきらめたものがあった。	・授業の中で、正答かどうかだけでなく、理由や根拠等を明らかにすることを意識できるように指導する。 ・類似の学習課題において、スモールステップで指導を行う。	・正答か否かに関わらず、自分で考えてそれを実現することの重要性を、全職員同一歩調で児童に伝えていく。 ・教師のコーディネートにより、自分の意見や考えの理由や根拠、考えの過程などを伝える機会を意図的に設ける。 ・友達の意見を、最後まで共感的に聞くことを徹底していく。